

科目ナンバリング		G-LAS15 80012 LJ74									
授業科目名 <英訳>		デザイン方法論 Design Methodology				担当者所属 職名・氏名		工学研究科 教授 三浦 研 工学研究科 教授 神吉 紀世子 工学研究科 教授 平田 晃久 防災研究所 教授 牧 紀男 京都大学 未定			
群	大学院横断教育科目群			分野(分類)	複合領域系			使用言語	日本語		
旧群		単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義（メディア授業科目）				
開講年度・ 開講期	2024・ 後期集中		曜時限	集中 未定		配当学年	大学院生	対象学生	全学向		
（工学研究科の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）											
[授業の概要・目的]											
21世紀を迎えてデザインが問い直されている。単に人工物を作ればよかった時代は終わり、今日のデザインはプロセスを含めて、豊かな経験やつながりを創り出す行為にまで広がっている。本講では、デザイン方法を概観したうえで、防災デザイン、発想法によるデザイン、建築都市デザイン、地域デザインの観点からデザイン方法論について演習・特別講演等に参加し、経験を通じて論点を議論する。防災デザインでは、津波・河川氾濫の浸水エリアを示したハザードマップ、避難のためのピクトグラム、警報の色レベル、災害に強い都市デザイン等々、社会の安全を守るための様々なデザインが存在する。アフォーダンス、リスクコミュニケーションという観点から防災に関わるデザインのあり方について解説する。発想法によるデザインでは、チームによる創造的発想法やブラッシュアップの手法を実践的に学ぶ。建築都市デザインでは、建築・都市のあり方に関わって、優れた先端的なアプローチで手掛けられているデザインの実例をとりあげる。内容にふさわしいゲスト講師を招き、可能であれば踏査をとりいれ、デザインの営為に関わる諸現象の関係性・持続性・真実性を総合的に捉える理論と営為の履歴と現在について学ぶ。地域・居住のデザインでは、「居住の持続」が困難な局面にある地域に出会ったときの支援のデザインを論じる。居住とは極めて総合的かつ普遍的であり、かつ、個々人の尊厳に最も深く関わる対象である。誇り高く生きる人間と地域社会、地域環境のあり方について、部分解にとどまらないデザインの思想を考える。講義全体を通じて、建築、地域、都市環境に関連した多様なデザイン方法論を理解し、実践するための基礎的な素養を身に付ける。											
[到達目標]											
人間、建築、地域、都市のデザイン方法を理解し、実践するための基礎的な素養を身につける。											
[授業計画と内容]											
① デザイン方法論の進め方（1回）講義の予定、デザイン方法論に関わる基礎的理論の概説・イントロダクション ② 防災デザイン（3回）命を守るためのデザインの方法・リスク評価の方法と限界・リスクコミュニケーション・ハザードマップ、地域の復興のデザイン ③ 発想法によるデザイン（3回）発想法について事前学習したうえで、異なる分野の人とチームを組んで、アイデアをブラッシュアップする方法を実践的に学びます。具体的な文具またはプロダクトコンペへの応募を想定して取り組む。 ④ 建築都市デザイン（3回）建築・都市のあり方に関わって、優れた先端的なアプローチで手掛けられているデザインの実例をとりあげる。内容にふさわしいゲスト講師を招き、可能であれば踏査をとりいれる。 ⑤ 地域・居住のデザイン（3回）地域・居住のデザイン（3回）地域社会の役割・可能性、主体の参画と個人の尊厳、子どもの参画（R.Hart）、不明瞭な論点構造を見抜き地域に内在する価値を扱うDynamicAuthenticityのアプローチ											
-----デザイン方法論(2)へ続く↓↓↓-----											

デザイン方法論(2)

⑥ ディスカッション（2回）それぞれのデザイン領域を統合した議論を行い、デザイン方法論の新たな議論構築を考察する。教員全員で担当する。レポートや各回の議論に対するフィードバックも含める。

★本講義は、全学共通大学院科目でもあり受講生は吉田・桂・宇治およびその他のキャンパスの学生が含まれる。遠隔地にある実例経験を重視するため、現地調査やゲスト講師の参画を全体に取り入れる、同時双方向で受講生が議論に参画する。さらには、オンライン上でのコミュニケーションによるデザイン経験のあり方そのものも講義に含まれる。そのため、全体にわたって、メディア授業と対面授業を同時に実現するハイブリッド方式での講義で構成している。2024年度もこれに取り組む。

★レポートや各回の議論に対するフィードバックも含める。

[履修要件]

特に定めない。本講義は原則、①と⑥を桂キャンパスとで実施するが、②から⑤は現地見学等フィールドで行うことがある。具体的な予定は別途通知する。

[成績評価の方法・観点]

レポート課題として、②～⑤の4人の教員の話と⑥を通じて「デザイン方法論」を論じる。レポート課題を原則として4回出題する。

[教科書]

授業は配付プリント、およびプロジェクターによるスライドを用いて行う（PandA上で共有する）。

[参考書等]

（参考書）

参考書は授業中にその都度紹介し、文献リストも追って配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

適宜講義中に指示する。

[その他（オフィスアワー等）]

【メディア授業科目】

授業のスケジュールは、後期開始時に掲示等を通じて調整する。PandA上での連絡調整を見てください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。